

会議録

会議の名称	令和6年度第5回朝霞市立朝霞第七小学校学校運営協議会	
開催日時	令和7年2月27日（木） 午後1時30分から午後3時00分まで	
開催場所	朝霞市立朝霞第七小学校 1階 レッツホールーム	
出席者及び欠席者の職・氏名	学校運営協議会委員6名 事務局 1名（朝霞第七小学校教頭） 欠席者 2名	
議題	学校評価について	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・学校評価結果 	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法：委員長による確認	
傍聴者の数	傍聴者 0人	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（校長あいさつ）

令和6年度もあとわずか。本日入れてあと18日となる。学校便りは3月号まで発行している。1年を振り返って、子どもだけでなく、職員も努力を積み重ねてきた。また地域や保護者に支えられてやってくることができた。子どもたち一人一人のために力を発揮している。今回は1年間の総括として学校評価を取り上げている。学校運営状況の評価改善を行っていく取り組みである。校内では、保護者、教職員、5・6年児童、関係者評価で成り立っている。うけとめるべきところなど、忌憚のない意見をいただきたいと思う

（委員）

給食については、あまり現状がよくないという話を聞いている。食材の値上がりについては、広く知られている通りであるが、価格はもどらないけど、供給はされてきている。業者によって対応が違う。自社努力でやっているところもある。

（委員）

国による無償化の動きもあるが、行政がしっかりやっていく必要がある。

（委員）

学校給食基本法で、摂取しなければいけない栄養が明記されている。値上げした時代を知っているが、栄養等の数値を満たすことが必要だった。数値が、当時から変わっていないから、現状とあっているかはわからない。そこら辺の見直しも必要なのだろう。市長が今回変わった。給食の無償化を言っていたので実現してほしいが、「無償化したから我慢しなさい」ではいけない。無償化する以上、満足する取り組みをしてほしい。

（委員）

「信用ならない」「独自のルール」「先生ルール」といった意見は、学校の状況がそうであるならば、指導、そうでないなら、どう解釈して対応するか、管理職がソフトランニングを目指す必要がある。教職員の仕事過多については、細かなことを言えないので、改善できることは改善できるとよい。働き方改革として、ここをなくせないと教育委員会にいうことも大切。学校応援団については、方向性を決めたが、管理職がすぐかわるので、継承されていない点がある、またコロナで断絶の時期があった。今のスタイルにあった学校応援団をつくれればいい。しかし、学校応援団は学校のお手伝いではない。自発的に協力したいと思わせることが必要。学校が何に困っているか、地域が学校に何を期待しているか、そういった共有が必要。自助として学校、共助として保護者、公助として地域と思っている。新市長がインクルーシブを言っているが、インクルーシブの教育→包括的→学校にしわ寄せがくることも考えられる。できないことはできないとっていくことは必要。学校関係者には、校長OB等もいるので、政治の材料にされないように、できること、できないことをっていくことが大切。現場の声を明確にしていくことが大切。

（委員）

保護者配信アプリは便利だけど、配信量が多すぎるのは課題。連絡の軽重がわからな

く埋もれてしまう。学校評価、真剣に答えようと思うと、学校のことをあまり知らないことに気づく。本日、授業参観、懇談会があり、様子を見ることができたけど、なかなか学校を知る機会がない。おそらくPTAも同じ。

(校長)

保護者配信アプリを今年活用して、利点も欠点もわかってきた。

(委員)

PTAや市、自治体も配信アプリを使っている。学校だけが悪いというわけではない。

(委員)

様々なことがオンライン化されてきて、先生と保護者の距離感が以前より、開いていることを感じる。以前は週5日で学校に来ることもあるので、先生の大変さも垣間見ることがあった。距離感を縮めることで、学校の様子を知ること、興味を持ってもらい、保護者の意見を反映させることができるという考え方もある。

(委員)

管理職によっても、PTAへの対応が違う。

(委員)

もっと関わっていいのかもしれない。この組織のことについても、どれだけの教員が知っているのか。一度話す機会があってもいいのかもしれない。

(委員)

学校応援団を復活させていくことも検討の余地がある。

(校長)

委員の言っている通り、コロナを経て変わったこともある。

(委員)

除草作業から、伐採等、いろいろ取り組んでいた。保護者だけでなく、卒業生保護者も協力してくれた。当時は60人くらいいた。

(委員)

今のおやじの会が、学校応援団をひきついでいるように思う。

(委員)

以前はおやじの会は、保護者中心、学校応援団は、卒業生保護者という流れがあった。

(委員)

今は、読み聞かせサークルが、卒業生保護者で行っている。学校応援団の起源をたどると、学校の教室を開放し、地域の方に自由にいてもらい合わせていく場所のない児童をみてもらっていたりする。またそうする学校の同線分離なども行っている。確かに予算や安全面等の課題があるが、何ができるかを考えていくことは大事。

(校長)

地域の団体等、不明な現状を把握するところから始められるとよいのではないか。

(委員)

現状ある組織で悩み等を改善できるとよいのかもしれない。

(委員)

取り組みについては、教職員補助、防犯、環境保護で3分類することができる。学級補助は「ぐりぐら」、環境保護は「学校応援団」等考えることができる。また、保険についてもカバーすることも大切。

(委員)

保護者は400回くらい、放課後パトロールをしていた。回数が多すぎたのでなくして、「ながら」パトロールを推奨している。そういった改善もPTAでは進めている。

(校長)

学校評価については、今後公開し、改善に努めていきます。